



「肺の日」記念 市民公開講座を開催して

副院長 中野喜久雄

本年7月8日に第55回日本呼吸器学会地方会会長を務めさせて頂きました。その一環として8月7日に呉市、呉市医師会、当院の後援を受け、「肺の日」記念の市民公開講座を当院地域医療センターで開催しました（ポスター 図1）。この「肺の日」は、日本呼吸器学会が2007年に8月1日を8と1との語呂合わせで制定しました。その日の前後で毎年開催する市民公開講座は、市民に肺の健康について良く知って頂き、さらに肺の病気の予防と早期発見に心がけて頂くことを目的としています。



図1

開催当日は最高気温が34℃の真夏日であったにもかかわらず、65名の市民の方に御参加頂きました。そして当院臨床研究部長の山下芳典先生（図2）の司会進行で4つの講演が行われた。まず中国労災病院呼吸器内科医長の塩田直樹先生（図3）が「肺炎とはどんな？」の演題名で講演され、日本での肺炎による死亡率の増加、肺炎球菌肺炎が最も多いこと、肺炎球菌ワクチン接種の重要性等を主体に話された。そのワクチン接種に対して市民から多くの質問があり、市民の方の関心の高さがうかがえた。続いて当院の北原良洋先生（図4）が「喫煙者に忍び寄る慢性閉塞性肺疾患（COPD）に



図2



図3



図4

御用心！？～禁煙で目指そう、肺のアンチエイジング～」の演題名で講演された。COPDの増加と早期発見のための医療機関への早期受診さらには禁煙の重要性について丁寧に説明された。次に「肺年齢」の測定を希望者40名に実体験して頂き、測定値について奥本稷先生、三登峯代先生、妹尾美里先生がそれぞれ市民に分かり易く説明された（図5）。



図5

休憩を挟んで講演3は、呉共済病院副院長の塩田雄太郎先生（図6）が「間質性肺炎ってどんな病気？」の演題名で講演された。治療薬の少ない難治性の疾患であるが最近、新薬が開発されたことを説明された。実際に治療中の患者さんから具体的な診断や治療について



図6

の質問があった。最後に小生が「造船の町」呉に多いアスベスト関連疾患ってどんな病気？」の演題名で講演を行い、造船がもたらした正と負の遺産、今後のアスベスト暴露に対する市民レベルでの注意点等を説明した。最後まで市民の方が熱心に傾聴と質問をされ、予定終了時刻の午後4時を15分超過し、非常に有意義な市民公開講座であった。

項を終えるにあたり会場の準備と管理を担当して頂いた庶務課の豊田友弘さん、村瀬広治さん、そして事務局担当の医師事務作業補助員の才野かおりさんに深謝致します。